

# 大学入試における英語認定試験の利用に対する高校側の意見 (2)

## ——この1年間の変化を中心に——

○倉元直樹<sup>1</sup>，宮本友弘<sup>1</sup>

<sup>1</sup>東北大学高度教養教育・学生支援機構

### 1 問題

2020年度入試から導入される大学入学者選抜制度では大きな変更が予定されている。その一つが大学入試センター試験に代わる大学入学共通テスト（以後「新共通テスト」と略記）の一環としての、英語4技能の測定に関する民間の資格・検定試験（以後「英語認定試験」と略記）の活用である。ところが、試験実施から1年を切った段階でも実施面で不透明な点が多い。中止を求める署名活動の国会請願（2019年6月18日）や高等学校長協会から文部科学省への懸念の早期解消を求める要望書の提出（2019年7月25日）等の動きも報じられている。

国立大学協会（以後「国大協」と略記）は、2017年11月10日公表の「平成32年度以降の国立大学の入学者選抜制度——国立大学協会の基本方針——（以後、「国大協方針」と略記）」の中で国立大学の一般選抜の全受験生に対して新共通テストの英語と英語認定試験の双方を課すことを定めたが、個別大学の実際の対応は分かれている（文部科学省，2019）。東北大学では英語認定試験の活用に関する意思決定を前に、2018年1～3月に、東北大学に受験生を多く輩出する高校を対象として高大接続改革に関わる個別問題に関する調査を実施した。そのうち、英語認定試験に関わる項目については「国大協方針への賛成」が8.3%と極めて少数であった（倉元・長濱，2018）。その後、国大協自身が意見書（国立大学協会，2017）の中で要求していた条件整備に解決の見通しがないことや上記調査の結果を踏まえ、2018年12月5日公表の「平成33年度（2021年度）入試における本学の基本方針について（予告）（以後、『東北大方針』と略記）」の中で、初年度の英語認定試験の導入を見送る旨の方針を発表した（東北大学，2018）。ただし、英語4技能修得を推進する立場から、翌年度以降の入試については「英語認定試験に関する問題の解消と高等学校側の受入れ状況を勘案しながら検討を重ねる」とされている。

以上のような経緯の下、東北大学入試センターでは2018年12月～2019年3月に前回調査とほぼ同

一高校（9校が対象を外れ、新たに52校が加わった）に2018年に東北大学が公表した2度の予告（東北大方針に加えて7月公表の「AO入試Ⅲ期の継続」に関する予告）について調査を行った。その結果、7割以上の高校ではすでに東北大学の予告を入手しており、英語認定試験活用、新共通テスト記述式問題の活用、調査書等の扱いのいずれについても東北大方針への「賛成」が「反対」を大きく上回った（倉元・長濱，2019）。

本報告では、上記の2度の調査から英語認定試験の活用に関する意見を取り上げ、特にこの1年間の変化に焦点を当てて報告する。

### 2 方法

2018年1～3月に実施された調査を「調査2017」、2018年12月～2019年3月に実施された調査を「調査2018」とする。方法の詳細は倉元・長濱（2018，2019）等を参照のこと。

#### 2.1 調査対象，調査方法

東北大学に志願者、合格者を多数輩出する高等学校。「調査2017」では269校、「調査2018」ではそれを含む312校。質問紙調査で郵送調査である。いずれも調査内容に詳しい教員に回答を求めたが、同一人物が回答したか否かは確認の方法がない。なお、調査票はウェブサイトからダウンロードすることも可能とし、「調査2018」については調査票に記入する以外にも回答用のウェブサイトを通じた回答も可とした。その結果、「調査2018」の自由記述については、調査票に設定された自由記述欄への記載可能量を大きく上回る分量の回答も可能となった。

#### 2.2 分析対象項目

「調査2017」は以下の図1、「調査2018」は図2のとおりである。前者は国大協方針に関する質問、後者は東北大方針に関する質問であるが、英語認定試験に関しては、回答側は類似の趣旨の設問と理解したとみなして分析を行った。

### 3. 英語の外部試験について

新テストの英語科目に加えて、外部試験を一般選抜の全受験者に課するという国立大学協会の「基本方針」についてどうお考えでしょうか。該当箇所の一つだけ○を付けて下さい。また、そのように考える理由について、[ ]に記述して下さい。

1. 「基本方針」に賛成      2. 「基本方針」はやむを得ない      3. 「基本方針」に反対

図1 「調査2017」における質問項目

### 3.1 英語認定試験（一般選抜）について

2021年度入試において、予告文にあるように、東北大学では「CEFRにおけるA2レベル以上の能力を備えていることが望ましい」ことを出願基準とします。ただし、英語認定試験の受検を求めるものではありません。この方針について、貴校では、どのようにお考えでしょうか。該当箇所の一つだけ○を付けてください。また、そのように考える理由について記述してください。

1. 賛成                                  2. どちらとも言えない                                  3. 反対

図2 「調査2018」における質問項目

表1. 英語認定試験に対する高校側の意見（集計結果）

集計方法	国大協方針（調査2017）			東北大方針（調査2018）		
	1. 賛成	2. やむを得ない	3. 反対	1. 賛成	2. どちらとも言えない	3. 反対
単純集計	<b>8.3% (18)</b>	49.5% (107)	42.1% (91)	82.8% (207)	14.8% (37)	<b>2.4% (6)</b>
全志願者数	6.5% (1,370)	49.0% (10,395)	44.5% (9,440)	87.7% (24,118)	9.7% (2,661)	2.7% (731)
全合格者数	5.9% (442)	49.2% (3,394)	44.9% (3,376)	87.8% (8,341)	9.6% (912)	2.6% (247)

## 2.3 分析方法

集計方法については従来からの方法を踏襲し、単純集計と全志願者数重み、全合格者数重みを併用した（倉元・宮本・長濱，2018）。自由記述の категория分類は調査に応じて独自に作成した。「キーワード・概念」については、倉元・宮本（2018）で「調査2017」に用いたキーワード・概念を一部改変して「調査2018」のデータにも適用することとした。いずれも第1著者が定義を行って仮分類を行い、それに対して第2著者が再分析を加える手順で客観性の担保を試みた。

## 3 結果と考察

### 3.1 カバー率と東北大方針の認知度

「調査2017」では返送数が218校、返送率が単純重みで81.0%、全志願者重みで89.1%、全合格者重みで89.6%であった。「調査2018」では返送数が250校、単純重みで80.1%、全志願者重みで87.0%、全合格者重みで87.8%であった。

### 3.2 選択式回答に基づく高校の意見

英語認定試験に関する選択式の設問に対する回答結果を表1に示す。「調査2018」で「東北大方針に反対」とした高校は2.4%（6校）にとどまった。

回答傾向に年度を超えた一貫性は見られなかった。すなわち、「調査2017」で「国大協方針に賛成」と回答した高校のうち「調査2018」で対象外、無回答の2校を除いた81%（16校中13校）が東北大方針には「賛成」と回答していた。逆に「調査2018」で「反対」の6校で「調査2017」で国大協方針に「賛成」であった高校は皆無である。

### 3.3 自由記述の分析

#### 3.3.1 カテゴリ分類

「調査2017」には倉元・宮本（2018）で用いたカテゴリ分類を再び適用した。結果を表2に示す。全体としては「9. 根拠に基づく明確な反対」が4割弱、「4. 消極的賛成（やむを得ない）」「8. 本来は反対（決まった以上仕方がない）」がその半分弱ずつ、

「6. 条件面に問題が大きい（理念は理解できる）」が1割強といった分布であった。選択式回答と合わせると、国大協方針に「反対」の立場では8割以上が「9. 根拠に基づく明確な反対」であったのに対し、「賛成」の立場では「1. 根拠に基づく明確な賛成」が半分に満たず、十分な情報を得た上での回答であったのか、疑いがもたれる結果となった。また、「やむを得ない」と回答した群では「4. 消極的賛成（やむを得ない）」とともに「8. 本来は反対（決まった以上仕方がない）」が多数を占めた。倉元・宮本（2018）の対応分析によるグラフでは、「8. 本来は反対」はより強い反対の態度とも解釈できたことから、既決事項として提示されたことが「やむを得ない」という回答に向かわせた状況が否めない。

「調査 2018」の自由記述には、東北大方針に対する賛否と英語認定試験への賛否が入り混じって記載されていたので、それぞれについてカテゴリーを設

け、分類を行った。東北大方針に対する賛否を表3に示す。「1. 根拠に基づく明確な賛成」が最も多く、全体で8割近くに達した。東北大方針に「反対」とした6件の回答は方向性がまちまちで、「9. 根拠に基づく明確な反対」は1件のみであった。

英語認定試験への賛否を表4に示す。「8. 英語外部試験に懸念・反対」が6割弱を占めた。「調査 2017」と比較しても「反対」の方向に振れている。東北大方針に「2. どちらとも言えない」と回答した群では「3. すでに受験体制を整えている、結局受験する、他に方法がない」「4. 大学によって対応が違うことが問題」との意見が約30%ずつであった。英語認定試験に対する賛否以前にすでに対策を行っていることで、回答が誘導されたように思われる。東北大方針に反対の群の回答傾向はバラバラで、自由記述と合わせると選択肢を勘違いしたのではないかと思われる回答が6件中2件あったことも判明した。

表 2. 自由記述に基づく英語認定試験への賛否（調査 2017）

カテゴリー分類	全体	国大協方針		
		1. 賛成	2. やむを得ない	3. 反対
1. 根拠に基づく明確な賛成	6.5% (13)	37.5% (6)	7.4% (7)	0.0% (0)
2. 改善点はあるが理念に賛成	3.5% (7)	18.8% (3)	4.2% (4)	0.0% (0)
3. 賛否両論併記（賛成寄り）	4.0% (8)	12.5% (2)	6.3% (6)	0.0% (0)
4. 消極的賛成（やむを得ない）	16.0% (32)	18.8% (3)	30.5% (29)	0.0% (0)
5. どちらとも言えない	1.5% (3)	0.0% (0)	3.2% (3)	0.0% (0)
6. 条件面に問題が大きい（理念は理解できる）	10.5% (21)	6.3% (1)	15.8% (15)	5.8% (5)
7. 賛意両論併記（反対寄り）	5.0% (10)	0.0% (0)	3.2% (3)	8.1% (7)
8. 本来は反対（決まった以上仕方がない）	14.0% (28)	6.3% (1)	26.3% (25)	2.3% (2)
9. 根拠に基づく明確な反対	38.5% (77)	0.0% (0)	3.2% (3)	83.9% (73)

表 3. 自由記述に基づく東北大方針への賛否（調査 2018）

カテゴリー分類	全体	東北大方針		
		1. 賛成	2. どちらとも言えない	3. 反対
1. 根拠に基づく明確な賛成	77.4% (175)	91.9% (170)	11.4% (4)	16.7% (1)
2. 具体的な根拠の記述はないが賛成	4.4% (10)	4.3% (8)	5.7% (2)	0.0% (0)
3. 理念には賛成、英語4技能を基準に加えることに反対・懸念	2.2% (5)	1.1% (2)	5.7% (2)	16.7% (1)
4. どちらかと言えば賛成	3.1% (7)	1.6% (3)	11.4% (4)	0.0% (0)
5. どちらとも言えない	5.3% (12)	0.0% (0)	34.3% (12)	0.0% (0)
6. 疑問有（誤解含）	2.2% (5)	0.6% (1)	8.6% (3)	16.7% (1)
7. どちらかと言えば反対	4.4% (10)	0.6% (1)	22.9% (8)	16.7% (1)
8. 具体的根拠の記述はないが反対	0.4% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	16.7% (1)
9. 根拠に基づく明確な反対	0.4% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	16.7% (1)

表 4. 自由記述に基づく英語認定試験への賛否 (調査 2018)

カテゴリー分類	全体	東北大方針		
		1. 賛成	2. どちらとも言えない	3. 反対
0. 英語外部試験に対して記述なし, その他	1.3% (3)	0.5% (1)	2.9% (1)	16.7% (1)
1. 根拠に基づき, 英語外部試験を課すことに賛成	0.9% (2)	0.5% (1)	0.0% (0)	16.7% (1)
2. 英語外部試験が前提, 好ましい	1.8% (4)	0.0% (0)	8.6% (3)	16.7% (1)
3. すでに受験体制を整えている, 結局受験する, 他に方法がない	6.6% (15)	2.2% (4)	31.4% (11)	0.0% (0)
4. 大学によって対応が違うことが問題	5.3% (12)	0.5% (1)	28.6% (10)	16.7% (1)
5. 自校は問題ないが, 全体には懸念あり	0.9% (2)	0.5% (1)	2.9% (1)	0.0% (0)
6. 他の方法 (個別試験, 公の機関) で4技能を測定すべき	2.2% (5)	2.2% (4)	2.9% (1)	0.0% (0)
7. 東北大方針に賛成, 英語外部試験を一律に課すことに反対・懸念	16.8% (38)	20.0% (37)	2.9% (1)	0.0% (0)
8. 英語外部試験に懸念・反対	57.5% (130)	67.0% (124)	14.3% (5)	16.7% (1)
9. 4技能評価そのものに反対, ないしは, 現状で十分	6.6% (15)	6.5% (12)	5.7% (2)	16.7% (1)

### 3.3.2. キーワード・概念

倉元・宮本 (2018) に倣い, 「調査 2018」の自由記述の「キーワード・概念」の有無について判定を行った。上位概念は宮本・倉元 (2018) と同一だが, 一部項目に改変を加えた。表 5 に分類結果を示す。改変した項目はボールド, イタリックと下線で示す。

表 5. 自由記述のキーワード・概念 (調査 2018)

キーワード・概念	比率	度数
A. 理念 (4技能)	25.7%	58
A. 理念 (英語力)	19.0%	43
A. 理念 (包括)	8.8%	20
B. 公平性 (試験方法 [測定・尺度])	19.9%	45
B. 公平性 (試験方法 [包括])	25.2%	57
C. 公平性 (条件 [経済])	15.0%	34
C. 公平性 (条件 [地域])	14.6%	33
C. 公平性 (条件 [時期])	9.3%	21
C. 公平性 (条件 [包括])	<b>45.1%</b>	102
D. 高校教育 (対策)	28.3%	64
D. 高校教育 (行事日程)	7.5%	17
D. 高校教育 (生徒負担)	24.3%	55
D. 高校教育 (包括)	19.9%	45
E. 大学・入試 (個別)	12.8%	29
E. 大学・入試 (共通 <b>試験</b> )	5.8%	13
E. 大学・入試 (大学の <b>問題</b> )	22.1%	50
<b><i>E. 大学・入試 (東北大学)</i></b>	19.0%	43
F. 社会問題 (受験産業)	<b>58.8%</b>	133
<b><i>G. 総論 (東北大方針肯定)</i></b>	<b>65.9%</b>	149
<b><i>G. 総論 (東北大方針否定)</i></b>	12.8%	29
<b><i>G. 総論 (英語外部試験肯定)</i></b>	1.3%	3
<b><i>G. 総論 (英語外部試験否定)</i></b>	<b>64.6%</b>	146
G. 総論 (既決事項)	14.2%	32
チェック数合計	5.40	1,221

自由記述欄の大きさに制約がなかったためか, 1件あたり平均5つ以上のキーワード・概念にチェックが入った。「G. 総論 (東北大方針肯定)」と「G. 総論 (英語外部試験否定)」についてそれぞれ約 2/3 の回答が触れており, 次いで「F. 社会問題 (受験産業)」が6割近くに達した。なお, 「民間試験」であることに触れた記述は全て該当することとしたので, 必ずしも「受験産業」には当たらない記述もある。次いで, 「C. 公平性 (条件 [包括])」について半数近くが触れていた。

以上のことから, 高校側の意見として, この1年間で英語認定試験に対する懸念が強まっていることが示唆された。

### 主な文献

- 倉元直樹・宮本友弘 (2018). 「大学入試における英語認定試験の利用に対する高校側の意見——主として賛否の根拠をめぐって——」『日本教育心理学会第 60 回総会発表論文集』270.
- 倉元直樹・長濱裕幸 (2018). 「高大接続改革への対応に関する高校側の意見——自己採点利用方式による第1次選考, 認定試験及び新共通テスト記述式問題の活用——」『全国大学入学者選抜研究連絡協議会第 13 回大会研究発表予稿集』78-83.
- 倉元直樹・長濱裕幸 (2019). 「2021 年度東北大学入試の予告に対する高校側の評価——『受験生保護の大原則』の観点から——」『全国大学入学者選抜研究連絡協議会第 14 回大会研究発表予稿集』39-44.
- 倉元直樹・宮本友弘・長濱裕幸 (2019). 「高大接続改革への対応に関する高校側の意見——東北大学の AO 入試を事例として——」『日本テスト学会誌』15, 99-119.